民友クラブ・市政会行政視察報告書

平成29年5月26日

視察先　埼玉県入間市・東京都西東京市

報告者　稲垣達雄

期　日：平成29年5月18日（木）～5月19日（金）

入間市議会
副議長
小島清人
Kiyoto Kojima
〒358-8511
埼玉県入間市豊岡1丁目16番1号
TEL：04-2965-1111（代表）
FAX：04-2965-7177

調査事項：「小中一貫教育について」入間市
「下野谷遺跡公園について」西東京市

1日目：5月18日（木）埼玉県入間市

調査事項：「小中一貫教育について」

△東町小学校・中学校にて現地視察

（1）事業に至った背景と経緯について

【導入の背景】

平成１８年度当時、中学校は校内暴力・不登校など反社会・非社会的な問題が山積し、小学校では授業中に座席について授業が受けられない１年生がどの学校にも在籍していた。こうした課題解決のためには、就学前段階から義務教育段階への円滑な接続が重要であると認識し、平成２１年度、入間市に育つすべての子どもたちの豊かな育ちと学びを実現し、一人一人の自立を総合的に支援するため、立ち上がった。

【経緯】

・平成２１年度 子ども未来室事業開始

子ども未来室事業の基本理念は、入間市に育つすべての子どもたちの自立を総合的に支援することです。学校間の円滑な持続を支援するため、保幼小の連携・小中の連携・中高の連携を推進してきました。

・平成２３年度 埼玉県教育委員会より研究委嘱

平成２３・２４・２５年度、東町小・中学校が埼玉県教育委員会より「小中一貫教育推進モデル事業」の委嘱を受けました。

・平成２５年度 文部科学省の調査研究の委託

平成２５年度から３年間の予定で、文部科学省の調査研究「小中一貫教育校における多様な教育システムによる研究」の委託を受けています。

＊小中一貫教育の様々な取組みにより、学校力を高め、豊かな人間性を育むことをねらいとしています。

（２）取組み内容について（各学校区の特色を生かした取組みを行っています。）

乗り入れ授業：小学校の先生が中学校１年の数学の授業に参加しています。

小学生の学習支援：小学校の授業に中学校３年生が参加して学習の支援をしています。

市内体育祭練習への参加：中学校が小学校の体育祭練習に参加し、競技のアドバイスをします。

中学校生活の説明：中学校が小学校６年生に中学校生活の説明をしています。

小中合同研修会：小中学校の先生が合同で指導方法等について研修を行います。

保護者・地域の交流：小学校 PTA が合同で地域行事に参加しています。

（３）成果と今後の課題について

【成果】

・小・中学校生活の落ち着き（小１プロブレムや中１ギャップが解消）

・不登校児童生徒発生率の減少

平成１８年度　小学校 0.16%　中学校 2.33%

平成２６年度　小学校０%　　中学校 0.75%

・中学校入学に対する不安感の軽減

（新教科・教科担任制についてのアンケート結果）

平成２５年度小学６年**３５%** ⇒ 平成２６年度中学１年**２７%**　**不安が減少**

平成２６年度小学６年**２８%** ⇒ 平成２７年度中学１年**２１%**　**不安が減少**

【今後の課題】

・学校区の特色をいかした教員交流の充実・指導計画の改善

・小中一貫サポーター（非常勤講師）の人材確保と校内体制の工夫

・１中２小型や小中学校間の距離がある中学校区における一貫教育の推進

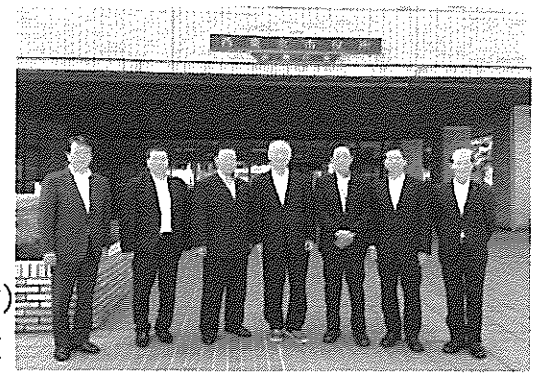
所　感

入間市では、平成21年より推進している子ども未来室事業の基本理念を踏まえ、小中一貫教育を平成26年度からすべての中学校区で始められた。狙いは、小中一貫教育の様々な取組みにより学校力を高め、豊かな人間性を育む事とした。

本事業の義務教育９年間のまとめとして、個性や能力を伸ばし、社会の一員として自立して生きて行く力を身に付けることが出来た。また、小中５・６年生に一部教科担任制、小中学校間の乗り入れ授業を実施し、より多くの教員が係る中で、思考力や物事を適切に判断する力を身に付けられた。そして、学級担任によるきめ細かな指導を行い、基本的生活習慣や基礎的・基本的な学習内容が身に付いたと報告されました。こうした事業は知立市に於いても少人数学級の拡大とともに大いに調査と研究を進めるべきと提案させて頂きます。

２日目：平成29年5月19日（金）　東京都西東京市

調査事項：下野谷遺跡について



△下野谷遺跡公園にて現地調査

・下野谷遺跡は、西東京市東伏見二丁目、三丁目、六丁目地内に所在する縄文時代中期（今から約五千年前～四千年前）の環状集落で、南関東では傑出した規模と内容を誇っている。集落には土坑（お墓と考えられる穴）郡のある広場を囲むように、住居跡や堀立柱建物（倉庫などと考えられる建物）郡などが並ぶ形で構成されており、縄文時代中期の典型的な「環状集落」という構造をしている。更に、こう言った環状集落が谷を挟んで複数存在しており「双環状集落」と呼ばれる拠点的な集落の特徴があり、出土している土器からわかる集落の継続期間が 1000 年間と非常に長く、また、住居跡や土坑が密集して見つかっていることなどから、石神井川流域の拠点となる集落だったと考えられています。

（1）下野谷遺跡の計画的な保存・活用について

歴史文化、文化財を市民が共有し市、自らの郷土の財産として大切に思えるよう育てて行くことが求められています。

①　史跡の継続的な調査・研究を行う。

・文化財の計画的で総合的な調査の推進と文化財の記録を残す。

②　史跡の継続的な保存・管理を行う。

・文化財の保存管理対策の推進と文化財の担い手の育成及び支援、そして、文化財保護制度を充実する。

③　史跡整備と展示施設の設置行う。

・文化財情報を公開・発信すると共に文化財を活用した学校教育の充実及び生涯学習と連携した文化財に親しむ機会を作り、市民参加による文化財普及啓発を推進して文化財を活かした地域の魅力を創り出す。

④　史跡の活用の推進。

・都市計画と連携した文化財保護・活用の環境整備と保護、また学習拠点の整備・充実や新たな保存・活用拠点の設置など検討し、関係機関や団体との連携を強化して推進体制をより充実する。

（2）現状の問題点と今後の課題につて

「歴史文化」とは、文化財とそれに係る様々な要素とが一体となったものを指しています。様々な要素とは、文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承などであり、文化財の周辺環境と言い換えることができます。こうしたことをまちぐるみで捉え“縄文から未来に繋ぐ文化財を守り育む、ふるさと西東京市”の実現が基本理念であります。歴史文化を繋ぐ貴重な文化財（下野谷遺跡）を確実に保存する事によって、西東京市の歴史文化を知り、学び、その魅力と価値を誇りに思う14万人余の市民意識の醸成こそが重要であり、今後の課題でもある。

所　感

歴史文化、文化財を市民が共有し、自らの郷土の財産として大切に思えるよう育てて行くことが視察先の西東京市（下野谷遺跡）の文化財保存・活用施策の柱とされている。下野谷遺跡群全体面積は（134,000 ㎡）東京ドーム 3 個分と広大である。都心まで 40km で、ベッドタウンとして発展を続けている。因みに西東京市の面積は知立とほぼ同じ 15,75 k ㎡、人口は概ね 20 万人と人口密度は全国第21 位であります。高度成長期に遺跡周辺にも開発の波が押し寄せ、研究者や学生、地域住民の中に遺跡消滅の危機管が募ったとも伺いました。高層マンションやハイカラな戸建て住宅が隣接しては遺跡公園の魅力が半減してしまいます。

当市が整備計画を進めている西中町の「荒新切遺跡」についても保存管理・活用・保護環境の充実など、今後一層の調査と研究が肝要であります。知立市にとっては、限られた自然の一部でもある「荒新切遺跡」周辺の整備計画は将来の知立市南部のまちづくりの拠点づくりとも言える重要な事業だと考えます。保存と活用を充分に研究して臨むべきと提案させて頂きます。